

大会参加報告書

第6回 3×3 U18日本選手権大会 西日本エリア大会

報告者 坂元 孝浩

大会日時：令和元年11月9日（土）

大会会場：大分県コンパルコール

大会詳細：別添付資料参照

11月9日 12:00～：大会参加審判員研修会

レクチャー担当：甲木 善徳 氏（福岡県、西日本エリア担当、トップリーグ担当）

：田中 智也 氏（宮崎県、トップリーグ担当）

コートを使用しての確認

1. コートデザイン・表示物の配置などの確認

2. T・Lの役割、エリアと責任ラインの確認

※今大会はメイン・タイマーとショットクロックが別表示となっていた事を確認し、どのように確認すればよりやりやすいかのディスカッション。

3. 選手にデモしてもらっての3×3独特のルール確認

① ショットクロック（12秒）

② New コントロールチームをDFするためのDF開始のルール（ノーチャージ・セミ・サークルを出てからDF開始など）

③ DOGの解説（靴紐の結び直し、チェックボールの違法なスタート、Reスタートをすぐにしないetc.）

※Reスタートに関しては選手に「コントロールして」などの声かけが必要。

④ New コントロールチームのノット・クリアの説明。

※New コントロールチームはノーチャージ・セミ・サークル・エリアからアーク（3Pライン）の外に出る必要がある。

※New コントロールチームはボールと体の一部がアーク（3ポイントライン）の外に出ればOK

⑤ チェック・ボールに対するワーニング・テクニカルの説明

⑥ 1vs2の確認（5人制とほぼ同じ） ※3×3に3POは導入されていない。

⑦ チーム・ファールの違いの説明

※1～6まで通常のファール、7～9個目からチームファールボーナス2ショット、10個以上はボーナス2ショット+ボールプレイ

⑧ 3×3はバスケットカウントでのボーナスショットは上記⑦の通りで1ショット

ではない。

4. 控室に戻っての映像確認（全員で間違いやすいケースなどの確認）

13:30 大会スタート

13:30 コート・アナウンス後の3コート同時スタート

Main コート・Aコート・Bコートの3面使用

Main コート：甲木 氏（福岡県 TC）

A コート：坂元（鹿児島県）

B コート：田中 氏（宮崎県 TC）

（A コートの担当審判員5名のクルーチーフを担当）

役割↓

- ・A コート担当審判員の割り当て決定
- ・ゲーム終了後の各コートでの注意点やクルーの決定
- ・ゲームコーディネーターからの指示等の伝達（スコア・シートの記入に関する細かい伝達）
- ・コートでの TF や報告事項の取りまとめ

17:30～ 審判員全体 MTG：担当審判員全員で控室にて。

コートで難しかった事、チャレンジできた事、このようにできた事など全員発信し共有して行った。

- ・ショット・クロックの確認がLの方が確認しやすいケースがあった
- ・ビジーな状態のフロア・カバレッジに工夫が必要であった
- ・表示物のトラブルでも TO との協力でゲーム運営ができた
- ・大会が1日で13G あって集中力の保持が困難であった
- ・Gが進むにつれて慣れて行った
- ・テクニカル・ファールのケースについて反応できなかった
- ・アンスポか悩んだケースがいくつかあった
- ・5人制との違いに悩んだ

終了後解散。

今回の大会参加を踏まえて

年号が令和になり約半年、今年に行けるところはどこでも行こうと決心し、県外の3×3大会（FIBA ポイント加算大会含む）へ毎月1回、多い時で2回以上参加し、3×3の大会のルールの理解と独特の戦い方等の理解に尽力してきました。

3 on3 に歴史を置きますが、鹿児島県ではここ数年、12月に日本選手権大会鹿児島県予選がオフィシャル大会として年に1回程度開催されるのが現状で3×3の大会が鹿児島では少ないな、というのが正直な感想でした。しかし世界へ視野を広げると、FIBA ポイント制であったり、個人ポイント取得の為に県外大会へ参加し獲得ポイントを目指すなど、さらには各国代表への道も見えるなどと、取り組み方は様々で、現在進行形で進化している新たなバスケの形であるとの認識に変わりました。その分、プレーヤーに対する責任は大きいなと改めて感じました。そんな中、3×3は2020年東京オリンピック正式種目となりました。3×3を取り組んでみて、バスケットボールに対する新たな挑戦の機会が増えていきました。鹿児島でももっと3×3が発展していく事を願い、その一員になりたいなと感じていました。

今回の大会では、競技規則の理解とクルーでのミーティングの必要性などをとても感じました。鹿児島で審判員として活動しており、インターハイ、国体へ向けた研修を重ね、全国津々浦々ルールは1つである事を再確認しました。大会数は少ないですが5人制の競技規則に通じる部分が多いことが再確認できました。

今後とも、鹿児島のバスケットボールおよび3×3バスケットボールの競技発展の為に取り組んでいく所存です。

12月末には日本選手権大会（オープン）鹿児島県予選が開催されます。3×3をより身近なものにできるよう。鹿児島の3×3プレーヤーのためにもとても意義のある大会参加となりました。

審判員として大会に携わるからには、これからの鹿児島県での3×3大会への責任も感じております。これからも活動の場を求めて、様々な大会への参加を続けていく決意です。

今回西日本エリアという全国エリア手前の大会へのノミネートの依頼を快諾していただいた原田審判長へ感謝致します。

以上、鹿児島県バスケットボール協会県外派遣報告書とは違い少し長めの報告となりましたが、大会参加報告書と致します。